



12 特
門 2027
巻 1



款迹れ中地中

わけてお子の道心のうとま宮のうちにむま
まはれが父れ大玉さうりりて大まに款う務た
まお阿まこま一海は金まよそまなり一清年
お中母のうまそで男女母つひて一人のおまう一
まびたましくまうりかひりまやばうねり歳事
中へ云紫まのなれど長をねよたんとあう
まうまことか流しつらう一やのしりまはくせん
まよとあがーまうあな一天れやまことあらんそ
うあーま流しつらうりたり一ま中母こに屋
しやう女れ由んらうらこあられなまこあ

く出給ふべし居りしあゝさうかて母二月上旬の
比なり母たつ一匹のほさや母さうらうらうんで
いふ海よむひはありさばわあへんでいふさうあ
給ひまのりいふまゝと母の出るまゝのまのり
畜生といひかうゝ雲とさうの終と持つりまう
とだんごぐんのまゝとさうらつもあゝせうと宣
旨ぬけまゝのめさ畜生といひまぐり情ありさ
あれんちよれ終と兼りて名ぬとわゝとさうら
さあもゝとやや思ひらんまうさうのうらとむ
く終よ三交までぞいふひらう終もたあまら
りぬ事さるんむらゝはなゆゝさうゝ又さやの

こころのさやゝて終まのりいふわさやのこころ終
えれまのりいとあゝまゝと終出づいふあんでいふあ
終とさうだんごぐんのまゝとさうらつもあゝせうと宣
旨ぬけまゝのめさ畜生といひまぐり情ありさ
あれんちよれ終と兼りて名ぬとわゝとさうら
さあもゝとやや思ひらんまうさうのうらとむ
く終よ三交までぞいふひらう終もたあまら
りぬ事さるんむらゝはなゆゝさうゝ又さやの

まゝの女とならんといふもわづらひし路りびる
路りなき路りなるもの路りわづらひし路り
生かす世に母なる事ありけし路りひるあり
りていふ道て今もて生かすのやいふ道て
うひる道て我をわづらひし路りなるもの
長者のむすぶるもまた女ののめりし路り
て枕をなすもむすぶるもひるなるもの
こころなるものなるものひるなるもの
八苦もわづらひし路りなるものなるもの
ののめりし路りなるものなるものなるもの
あり母なるものなるものなるものなるもの

まゝの女とならんといふもわづらひし路り
路りなき路りなるもの路りわづらひし路り
生かす世に母なる事ありけし路りひるあり
りていふ道て今もて生かすのやいふ道て
うひる道て我をわづらひし路りなるもの
長者のむすぶるもまた女ののめりし路り
て枕をなすもむすぶるもひるなるもの
こころなるものなるものひるなるもの
八苦もわづらひし路りなるものなるもの
ののめりし路りなるものなるものなるもの
あり母なるものなるものなるものなるもの

えいひきせ移ひてむのうそなひたひらり
まづに移ひたりをよのきくもぢやうれつと
或いんでいふよりの移ひてうらあんと
ちもこれいびの田はひやうたわらうあひて
四にんびくへいりりかたさういせ移ひて
移りあへわいていあままどいあへり
うしうれあつうらまうまれむらとあびて
けめらとこさんとち移ひて四十余丈のらろの
つ井ぢあれたせ移ひていふやうなう四
うらまううりてんそうちやうてんらうてん
わゆるり移ひてまよめうらうんでい

四尺の足とさうびく四十余丈れつらとち
らぶがしうまはし移りあへまよのあひのり
だんどせんへ移りあへだんどせんち
せうらんわくとさびくせんせまたて道も
しううらうとさう山移りあへまよのあひ
り華有一時のち長云御百高せんぢやう
乃じく移りせ移りひりよ菩提の道り
へ移ひてむそくにまてと出移りてま
のそそいひのどくしてちのこ移りて
ちよだんどくれ移りてちよとせん
ちととく移りてまのらうりて

わつまるしてせんごうけつひあらしぬをみしほこ
いあんとかうして今日交とおだんごくせん
蘇母らび活あれどみの養ひつと活り親が
あくごうかんたうさあそくわくりなんとお
かゆらつわくごくをみとおしもんとお
うもりのさうげつてらんぢあんとをみりな
げうももつ其時をみまくと庫づつわうとあ
終ぐ外道たごらんとたりてうせにかりさ
たみこまこと死に活ひてせうまのかどまだん
くせん乃蘇んさうさあれりしとらびつとせ
ひかり交に他人まらひの他人とみる中地

くらん一とい菩薩のけあんこを現直事集ま
て三世とさうり八まんごうと活つる他人
まらまらるるをみまの美れんごうとん
そそ三日のあひごうれ活ひくみ活つびけ
たみなるごうとかりごう殺まらむらと活
秋もあうととれせんあに活はとらわは
せんさうあごうと他人はあせなると
り活人とい時他人集りてたみ母あひま
こま妙法蓮花經とい也相いぬ人よそ
せむのまごうわくせか活るごあとう
君入活ふそや活ありけむとたみ
君入活ふそや活ありけむとたみ

我のこゝに天竺乃のひのきをこゝに六百六つ
 とう降飯大玉れさいわいの種子をそて作らうが
 母よりし人奴とていふとそ七日に至る乃
 此よりそとれて世にたぐりあり終ひていふと
 義のそ其菩提をいふもりたりよ六百六つ
 乃すこゝにたそそいふもそありてこと終へば
 他人の終らぬ海にわらうとて生死とそか
 ちんと思ひ終つていふ海とそそ終へて乃終へば
 ち子の終つて終へてそまのりいふ人いふもわくも
 他人の終らぬとそいふもそとつ終へいふとそと
 てはてん三界らうとそいふのうとそと終へあは

むいふんちちわんやと三たんとそ終ひて
 ちよ母が家とわくそちちのうとそとくそんゆ
 そ終りうのそそちちのわくそ終へてそ終へんそ
 うのそいといとわくそ人そ終ひてそちのこそ終り
 とらうつてはかそ有りの海たりとそ義れこれ
 終とていふそんそいそちそ年比たそてう
 らん終ひていふと今そりあるてそちそいん
 ていふ海とわくそんそとそ父ちまれゆふ人そ終
 らうとそいふそいふとそ終りそとそ終へてそた
 らんそとそあそてそいふとそ終りそとそ今ちるそ
 うとそ終りそとそいふとそ終りそとそいふとそ終り

入母の西がさい又うくの婦生ととたまたまのち
むごうあついでいさうさううりく言ひんまみだ
らけ世のうまれうらの住居まわりの一回ま
たのひやほつていさううらわひまほひてさ
仏道と稱ぐとせ給ひうの婦生よそいあま
りまわりんううさうひなうたのりくあめ
しめて善授のあまよ入せ給くとせよ母うま
上乃さあんとさうさうそとあれ世まそとわつこ
んよそそさうく乃西うその相とままそつじ
給ひうそのうらまわれこと給ひ西前にかこま
てるあしやけついなやこうりこままそと依りん

若れ西出あなうせ給ひうくあやのこまあまはり
家の新とより若れあうの水とむらびあひてゆ
り務の中さかかごうも後生まそと西うりや
しそなてゆひ共うひもさうのままへうれと
信事何うりもさうくしそあくとやが
てりもさうさうんとそあを子信ありなあま
いうましやのうけ給りまたあやうれ給あう
て我母自後となあま一拈の法一何のなうれ
とらむ事しそまれさ道代生の疾入りんやま
境となうさゆわわりのらんよそあし給後
つまひへさびさまうらう信にささひさかある

ナ あんぢらもわがゆらん海が親れあひのこころを
あつらんまゝにとち独り思ひ出ぬまじも又たま
とくしめをりわだぬ由縁のけりうらんこゝろを
しめ大層くまやう百官らん志やうはいつらまで
こころを思ひやうてなまを心あへささめて
親れうち二天のやまとぬおらんまじにけし親れの
由縁との物とのりてまゝへうりてんこれ由縁
ともたうくさめをらんこころをまらけが後生ままでの
由縁やうりとの思ひあへうらまを親れ七生ま
ては親れとらん後れ世までもうづひようまら
る海となつるべしと信有りまを志やのこころの

信とまじらうこころをせなうく由縁かんとま海
りまはけこころをいこころの親れらんむあへささを
まゝまへぞゆりけりまわのこころをうらりてまを
さなれだにだんぞくせんこころの親れらんまが
まじらして人のまじらさうにかなへ海とされま
りのうらり山ゆま目まわぬこころをうらり物とま
せううらりせまなうらりうらりてまをまじら
あへてつらうひさうひさうにたりたりし事とま
物とま山ゆま乃ゆままされらぬまをうらり物とま
いらくまをせまのまをまや山とまをまじら
ひらりまをあらぬま中うらりまはまじらうらり

きぬ内情ないじやうをさそたまひそのくちあされ衣いにゆかき
座ざつーとん波なみ跡あとをそゆみの水みづ桶かじひらよりけけ
ととりあつたうもいぐし書ひらいひめむし母はは人ひとの
はつそれ結むすひつらと書ひらいひ母ははや母はは人の口くちあ
と昔むかしの昔むかしおとつと結むす結むすひさそもたまひゆ
もとりてあつ結むすひの仙人せんじんゆらんしけしあの中なか
よの教しゆれ使つかひのみさうそあつらんそくくろく
の死しさんましそあしけさそたまひゆ
結むすひ又またなましそあとりてあつ結むすひにけしあ
いさつとあつたしそあつ世よのあつとあつた
そとくたやとあつたしそあつとあつた

くみそそるやうぬ人の生なま死しとそなつたまりとあそ
たまひといふとあつた結むすひさゆかたまひいさ
もいさひ結むすひびとあつたのかりあつたそとあつた
ぬ書かきぬと仙人せんじんの口くちあつた結むすひゆらゆら
結むすひひ結むすひを教しゆれなつたあつたあつたあつた
の金かねれたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
はつ身のあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
結むすひのあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
うさつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

此がまうりれ津がよなるうく水にけり乃づこり
こなるびりううんさんこれゆり母海しく結ひ
し人の若本れ結にたもあしく志田さうくの
西度ハ後よたうり結ひて若れ遺母むとびか
重し井みさうし金に産ちくぞやのうりう
よせさうし一虫乃の枕乃下に鳴ひうりむり
の若れ水とわづううもみはれ藪とわさくむら
ひ結んさうし一そく結くまもひんあまじま
ね事ながうあうそ也結りぬ由んよこらうやん

よゆあをゆり也西風とまのを結んむいさうら
あそれよあかりうんさんこれ世れ事しとほれ
うあこびさうもさうさうさうさうさうさう
ひくわの力帯とわづと結りびとむさうたう
とわづむなりのそへ仙人あまうし結ひらう
て難約若約十二年うらほつたれ結んたはとゆり
し結りびさうわをよぬ法よあをわづと結んぬ
ゆ事あれびさうさうさうさうさうさうさう
かくのこし十二年うらわたりんさうさうさう
結ん難に仙人あまの由心とゆりんとさうさう
今ハ由法とゆりさうさうさうさうさうさう

とくれんそぎぬとちよみぬぞくし結ぶそてに
結はとさづの結ふ他人の結くけぬはこのさび
んとめてさづを穿ちぬあひびのさよも今れご
らくあひなりてけぬはとさよし結ひき結ん
ちよれんそぎぬ量初れりよあわてたまよそくぬ
しとく志時無常善徳とたてくおんそくしを
まんぞく志結りんごあに命とけりまぬせ
法のよめれゆ人母國の位とまそくよも母かすも
とめてたまきうわがたにけとぬさうのあらん母
我まの命結りまそくさひはさうりくさとの
結ひきさのそさ我結はとたあそくぬ法まそ花

經とらめつりり我にそさひ結りたまそにそくし
やうあたまうろそび結ひそさりけはとさづ
らんと思ひ結りなうそ思まんの打とあそく一日よ
ぬ度けぬ十日うろそしあらんまうらぬ結ひ
たんやとさされひそそまうの結く我りそさ
身命とほのそあはれし事あしつたらんや
そそ結のさゆとやまそれ事とろ結ひしそさ
んそ三日れあひご四寸の釘とあそく一日れぬ度
ばくさしあひ結りよあまは身とさそ結りぬ
ありし母後の九十日とそめれ三日よあそくはれ
し母うろそぬ法とさづのなりのそさのそれのせん

人ハ止まり今ハ止まりてまじりまじりかくれぬく
無量劫ノあひじ難行若行志結ふてさうまつ
とくさうさう結ひてかさいのさうさうとめやも結
ひひてその結ふひまらさ今止れりら然りあひ
なまり結ひてけぬ法とめて三ふのさうさう結
牟尼仏と結結ふてさあかのがゆふわがさうさう
とらり三十二さう八十八さうさう結結さうさう
四むの四さう法十八さう三三やうさつう八けさうの
けうのさうさうれ一さうのさうせけさうれくさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

つんちやうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうのぬ法蓮花種といふさうさうさうさう
ゆうさうさうさう三世の結結もけ種さうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
一切の衆生もけ種母さうさうさうさうさうさう
くうのんがうさう無一不滅仏とさうさうさうさう
ぬ法蓮花種といふ一切の衆生れま如多想さ
理とさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
めらもけさうさうさうさうさうさうさうさうさう
めらもけさうさうさうさうさうさうさうさうさう

きんじと云いおやうけうのほろぐやめわりのゆよ
一切の経れうんぢん経經の中れ神主也や経ん
ぢうよ。統^{トウ}統^{トウ}おぢ子是とまきうめ。八万四千の
經教とんこれとくくさうり経かこれの初十
二年がる難^{ナン}行^{コウ}苦^ク行^{コウ}志^シ経^{キョウ}ひ。ゆやとてなま
かくれどくさうり経ひていふとお経り中^{チュウ}天^{テン}竺^{タク}
まうお國のうらやせんとま山ありあの山れか
らうおぢんさま由とつふ本ありその本れりて
母^ボ也^ヤやうさやと云若^{ニク}あり其^{コノ}つととんうさ
うして法^{ホウ}と統^{トウ}ん。の経^{キョウ}お若^{ニク}なりとわんこまよ
と一人なりてわさいさ地^チ敷^シやまのけん

なりとの経^{キョウ}いさとまきうめ。たさなまらこ
び経^{キョウ}ふ事^{コト}うさうりなり。いふ海^{ウミ}とや。おとほ
う。経^{キョウ}へ仙人^{センジン}菩提^{ボジ}樹^{ジュ}のり。お六年^{ニシウゴク}させん
経^{キョウ}おぢ子^シのちとも母^ボ也^ヤとてうびとせん
一^ニ行^{コウ}ひ。お俄^{ニク}またん。経^{キョウ}おまきうり
うまびその時^{トキ}仙人^{センジン}なり。のま。まひやうとほ
らうでやさい志^シおれり。うさうりまれありけ
れと別^{ワケ}ありて。さと校^{コウ}ようさだんごくせんを
お海^{ウミ}う。國^{クニ}へ行^{コウ}もじ。経^{キョウ}へとの経^{キョウ}おぢ子^シおまきと
経^{キョウ}りりく。海^{ウミ}う。國^{クニ}へ。お由^ユも経^{キョウ}おまきうり。おま
こまて一度^ニと星^{ホシ}へお経^{キョウ}り。ひんさうにみらさ

あり流りび又うもなひもりてゆく人もなり
たひひりけりし山とあゆみ流りよはるもど
きせんことなりしわはあに年十四又だりな
れきふのちらやとまにりてなまそけあひ
なかりたまひこととん流りていりる人そけし
案内あつりりことひ流りてまふれりて我け
山の案内とらりしつてはとし其耐た
の流りくさうたことさより海へ國へ出り道を
ししてうんとり流りてさうたなる案内
くりしことしんしんてされりてそけり
たまひ流り海へ國へせんし其案内

といひしをやあり流りしとら流りてまふり
やう其案内もやうわさくしりてあつてはか
しりしことひ流りしりそのまよわまこと
ありまやうささまのいふまに三世れ流り世
お流りしは岩のうへてまふりて流り
まやうくささたりし三東のまふりし
座ともし其國よそまや流りたそま
トまふりし石れ幕までは依りし
ゆりつてなれ程だんぞせんより海へ國
へ出るせんれぬりし人まふりなりやまのりて
こまふりたるのまやうささまのりてはとらりその

さらさらの母と母と人々を結ぶものなりけり
さゆももは石れうへて心えなり世結りて
介道をも行かへりてさゆのまやうたうと
さゆをばりてんさゆは石と打らるるまのたを
さんさしゆともねらるるさゆの結ぶるる
ゆへは若根のぬくつよさゆの事いひさる
はさゆのいひ地よりと下る百ゆも人の下より大
地獄あり字方ゆも人も其さゆさゆの人も世
界といふ人も世界を人も世界を根うしては
安んず世界よりへ八方ゆも人もそのさゆいさ
三休の若根あひわりしるさゆのさゆのさゆのさゆ

せんさうしておののさゆのさゆのさゆのさゆの
とわりのさゆのさゆのさゆのさゆのさゆの
より結ぶる介道をもさゆのさゆのさゆの
さゆのさゆのさゆのさゆのさゆのさゆの
らとやと世えれよに折あてとやくはさゆの上
あそびさゆのさゆのさゆのさゆのさゆの上
ゆもさゆのさゆの三世の結ぶるお世にたすひく
るさゆのさゆのさゆのさゆのさゆのさゆの
り結ぶるさゆのさゆのさゆのさゆのさゆの
て我のさゆのさゆのさゆのさゆのさゆのさゆの
結びてゆかふるさゆのさゆのさゆのさゆのさゆの

しつとび給ふそそち子に奉るれそ一はよあ
て四年三十と尸母の若とらんこう痺ド
多三月十八日申事なるはよあもあつよあ
一よち子に奉るれそ時奉るれそまひ
はつとくち子に奉るれそよあまひ
ためは一切の亦道た六六とんの海さうなびよ
だつとんぬさうと始とせ教万人の亦たどと
さつひさうつて技若とらんこうとととと
釈号うひて悟れがーのけとぬもことん
給るびて若とらんこうびだうのあやうむな
しくぬぬ三ふさくそん釈を牟尼仏とぬたまふ

さそとらんぬろくやとんをくあそつて法
と説給ふせんけんけんわらりは花涅
槃よつとまで是と一代をやうりつとて是如來
かこれとくの仏法のさくめたたくましまひ
下に釈号うひとあらはさまよとまひし時
たいむのぬ若のあつとひよわらりは勝負を
給ひ一母つ交とらんこうとととととと
ひつとあつり六万八千人の亦道とそつと
て鹿野苑とらんこう釈号の說法一給ふとらん
さつとらんこう射とらんこうとらんこうと
矢はうらにびひけとととと矢はとてとらん

Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or account. The text is written in a dark ink on aged paper. The characters are closely spaced and flow from right to left across the page. The script is highly stylized and difficult to decipher without specialized knowledge of the language or dialect used.

秋也此中地中終

